



外観（水防センター正面から）

「吉田町水防センター」が完成しました

吉田公園の南側（大井川河口西側）に、国土交通省が整備した「大井川川尻地区河川防災ステーション」は、災害時の堤防補強など「水防活動」を行う際に必要となる土砂などの緊急用資材を備蓄しておくほか、資材の搬出入やヘリコプターの離着陸などに必要な作業スペースを確保するもので、災害時、当該箇所は水防活動の拠点となることが想定されています。そのため、町では水防活動を行う拠点として必要な機能を備えた「水防センター」を同ステーション内に整備し、令和4年3月に完成を迎えました。



Point ①

コンテナを活用して建築

水防センターは建築用コンテナを活用した建物です。センターの建築にあたっては、沿岸部の海拔 11.8 m の高さに建築することから強風や塩害に耐えられるだけの堅牢な施設が求められること、都市計画区域内に建築するため、万が一事業化される際には撤去の必要があることなど多くの諸条件が重なっていました。建築用コンテナは鉄骨ラーメン構造で十分な強度を確保でき、容易に設置、撤去が可能なることから本工事に採用しました。

Point ②

平常時は賑わいの場に

水防センターは、当町沿岸部において新たな賑わいの場と位置付ける「シーガーデン」の一部となる施設であり、災害時は水防活動の拠点となる一方、平常時は人が集い、交流を生む場として整備するものです。東側には周辺を一望できるデッキテラスを設けており、防潮堤天端道でウォーキングやサイクリングを楽しむ人が、富士山や駿河湾等豊かな自然が織り成す眺望を楽しみながら休憩できる憩いの場となることを想定しています。

Point ③

自然エネルギーで電気を確保

水防センター付近には電線が通っていないことから、NTN 株式会社の独立電源「N3 キューブ」を活用しています。この N3 キューブは、建築用コンテナをベースに太陽光と風力の発電設備を備えたコンテナ型独立電源で、コンテナ内部を倉庫として活用しながらセンターに必要な電気を供給します。また、N3 キューブは取り外して運搬できるため、災害時に避難所等へ運搬・設置することで避難者への電力供給源として活用することも可能です。

